

あるところにはマークを入れて示しました。

掲載されている職人は39人。今回の南丹工芸文化祭に出展される方々の中から、取材をお世話になりました。この冊子を見るだけでも、多彩なものづくり文化が根付いていることが分かりますが、この広い市域にはまだまだ紹介しきれないほどの多くの工芸職人がおられます。

京都伝統工芸大学の工芸サークル「こたくみ」は、同大学の10の専攻課程（陶芸、木彫刻、仏像彫刻、蒔絵、木工芸、金属工芸、漆工芸、竹工芸、石工芸、和紙工芸）から学生が集まり、さまざまな活動を通して伝統工芸業界の実際について学習し、また業界に貢献できるように設立されたサークルです。

「南丹職人発見マップ」制作にあたって全体のコーディネートをしていたのは、NPO法人「京都匠塾」代表の高橋博樹さん。京都伝統工芸大学の卒業生であり、現在、同大学で講師をされています。そして、制作チーム統括ディレクターは、「こたくみ」の代表で、京都伝統工芸大学1年生の上田篤史さん。統率力、行動力、発想力でサークル顧



「京都匠塾」代表
高橋 博樹さん

京都の歴史がはぐくみ、受け継がれてきた伝統工芸の技は、世界でも類を見ないほど多彩で洗練されたものです。これらを新しい時代につなげていくために、私たち若手職人だからこそできることが何かあると思つて結成したのが「京都匠塾」です。伝統工芸大学



▲工芸職人(中央)宅を訪問し、インタビュー

校の卒業生を中心とした若手職人が集まり、町家工房「息吹」(園部町本町)を拠点に、工芸市の開催や子どもたちへの教室指導、地域活動・イベントにも積極的に参加し、伝統工芸業界がもっと活性化していくような活動を展開しています。

そして、この思いを学生の中でも広げていこうと、学生から有志を集めて昨年につくったサークルが「こたくみ」です。若手職人と学生が連携して、次世代に受け継がれる環境づくりを目指しています。

工芸サークル「こたくみ」には、現在70人の学生が所属しています。そのうち、今回の「南丹職人発見マップ」制作に取り組んだのは14人。市内のおよそ40件の工芸家のお宅や工房を、メンバーが手分けして訪ねました。ものづくりへの「おもい」は本当にさまざま、自分たち自身の勉強にもな



「こたくみ」代表
上田 篤史さん

りました。制作に際しては、職人さんの作品の良さが伝えられるように、写真撮影や地図の表示の仕方など試行錯誤しました。

南丹市は4つの府県に接する珍しい市で、山間部、市街地といろんな場所があり、これがものづくりの多様性につながっているのではないかと思います。貴重な体験となり、南丹市をより知る機会になりました。

これまで伝統工芸に詳しくなかった方々にも、また子どもたちにも、実は南丹市にこんな工芸文化があふれているということを知ってもらいたいと思っています。



▲マップ会議を重ねる「こたくみ」の制作チームメンバー